

令和 2 年度 清原北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の教育」を基盤に、自ら考え、正しく判断し、豊かな心をもって、たくましく生きる児童を育成する。

【考え深く】

【こころ豊かで】

【たくましく】

活用期	・ 自ら考え、工夫する子	・ こころ豊かで思いやりのある子	・ 気力と体力のあるたくましい子
基礎期	・ 自分で考え、学習する子	・ 親切で思いやりのある子	・ 元気でがんばる子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

【小規模特認校として、保護者や地域から信頼され連携・協力しながら、夢と理想をもって共に成長していく学校】

児童一人一人の良さを伸ばし、その成長を支え促す学びの場となるよう、児童・教職員・保護者・地域が互いに信頼し合い、関わり合いながら教育活動を一層充実させ、特色ある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

《基本方針》

「小規模特認校として、保護者や地域から信頼され連携・協力しながら、夢と理想をもって共に成長していく学校」

視点①【達成感と成就感】

児童一人一人が目当てをもって、生き生きと学習や活動に取り組み、達成感や成就感を味わうことのできる学校

視点②【個性と認め合い】

児童のよさや個性が発揮でき、お互いが認め合い、励まし合いながら伸びていこうとする気風が満ちている学校

視点③【気力と体力】

児童自らが、体力・健康・食生活の向上・安全を関連付けた望ましい生活習慣を身に付け、気力と体力が充実している学校

[清原地域学校園教育ビジョン]

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて、主体的に取り組む児童生徒の育成
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- ・ 国・県・市の示すところに従い、公教育の立場を堅持し調和と統一ある教育課程を編成する。
- ・ 児童の生きる力を育むこと、成長するための基盤を培うことを目指す。
- ・ 小規模特認校として、児童の実態や学校の特色、地域の教育力を生かして家庭や地域との連携を図る。
- ・ 教育課程を介して目標を学校と保護者、地域が共有し、教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、保護者や地域との連携・協働によりその実現を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 小規模特認校として、学校・家庭・地域が互いに連携を深め、地域の教育力を高めるとともに、小中一貫教育の基本方針に沿いながら学校力の向上を図る。
- ・ 教職員として自己研鑽を積み、専門職としての資質・能力を高め、協働しながら教科・学級・学校経営の適正化を図る。
- ・ 業務の適正化によるワークライフバランスを意識した働き方を推進する。

【学習指導】

- ・ 個に応じた細やかな指導により、「基礎学力の定着」を図る。
- 児童と達成感や成就感を共有し合うことにより「学ぼうとする力」を育成する。

【児童生徒指導】

- ・ 自分のよさや可能性を認識し、進んで課題解決や目標達成に取り組むための資質・能力として「自己肯定感」を高める。
- 認め合い、励まし合い、協力し合える豊かな人間関係を築き、「ともによりよく生きようとする心」を育成する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 体力向上・健康増進・食生活の充実・安全に関する望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身ともに「健康で安全な生活を創る力」を育成する。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上</p>	<p>① ねらいや目標を明確にし、見通しをもたせた授業を行うと共に、ふり返りについても書き方を指導し、個人内の変容や価値の一般化を図れるようにする。</p> <p>② 単元によって習熟度別学習を適切に取り入れ、学習内容の定着を図る。</p> <p>③ 年間指導計画の自校化を図り、新学習指導要領に則った研修を計画的に実施する。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 98.4%</p> <p>【次年度の方針】 ① 引き続き、ねらいや目標を明確にし、見通しをもたせた授業を行うと共に、ふり返りについても書き方を指導し、個人内の変容や価値の一般化を図れるようにする。 ② 単元によって習熟度別学習を適切に取り入れ、学習内容の定着を図る。 ③ 新学習指導要領に則った研修や学校課題に関わる研修を計画的に実施する。</p>
	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 掲示物「ハッピーな一ページ」による良い所紹介や、道徳科の授業を中心に多様な考えや価値観を認め合う機会を多く作る。</p> <p>② 「<u>ふわふわ言葉</u>」を推奨し、<u>優しい言葉遣いで相手に接することができるようにする。</u></p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 87.8% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ① 掲示物「ハッピーな一ページ」による良い所紹介や、道徳科の授業を中心に多様な考えや価値観を認め合う機会を多く作る。 ② 「<u>ふわふわ言葉</u>」を推奨し、<u>優しい言葉遣いで相手に接することができるようにするとともに、掲示したり放送で呼びかけたりすることで定着を図る。</u></p>
	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 基本的な生活習慣定着のため、教職員の共通理解を図るとともに学校や学級での様子を積極的に発信し、保護者の理解・協力・連携を引き続き強化していく。</p> <p>② 年度初めに学級できまりやマナーの確認や、児童会を主体に啓発活動を行い、全児童が同じ価値観を共有しながら実践できるよう指導していく。また、児童が自らマナーやきまりを再確認できるように可視化する。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 94.7% 保護者の肯定的回答 92.5%</p> <p>【次年度の方針】 ① 基本的な生活習慣定着のため、年度初めに教職員の共通理解の徹底を図るとともに疑問点や改善点などがあればすぐに対応する。また、学校や学級での様子をHPや学年だよりで積極的に発信し、保護者の理解・協力・連携を引き続き強化していく。 ② 年度初めに学級できまりやマナーの確認をし、問題行動があった時には共通理解しすぐに指導する。また、児童会を主体に啓発活動を行い、全児童が同じ価値観を共有しながら実践できるよう指導していく。さらに、児童が自らマナーやきまりを再確認できるように掲示物を工夫する。</p>

<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① <u>あいさつ運動を行う等、自治的な活動を推進する。</u></p> <p>② 教職員から積極的にあいさつをし、大人があいさつの模範となるようにする。</p> <p>③ 児童会においてあいさつを励行し、気持ちのよいあいさつをしている児童を紹介する。</p> <p>④ 廊下で先生とすれ違った際は、互いにあいさつや会釈をする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 97.6% 保護者の肯定的回答 86.8%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① <u>あいさつ運動を行う等、自治的な活動を推進する。</u></p> <p>② 教職員から積極的にあいさつをし、大人があいさつの模範となるようにする。</p> <p>③ 児童会においてあいさつを励行し、気持ちのよいあいさつをしている児童や学級を紹介する。</p> <p>④ 廊下で先生とすれ違った際は、互いにあいさつや会釈をする。</p>
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① <u>各種検定（鉄棒・水泳・縄跳び）において、今年度の目標値を設定させるとともに、中間にも目標値の確認を行い、必要に応じて目標の修正を行う。</u></p> <p>② 運動委員会の児童が「運動教え隊」を結成して視覚資料を作成して、新しい遊び等を紹介し、自然に日常運動につなげさせる。</p> <p>③ 各教科及び各活動において、振り返りを確実にを行い、自己の変容を確認させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 88.6% 教職員の肯定的回答 89.5%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① <u>各種検定（鉄棒・水泳・縄跳び）において、今年度の目標値を設定させるとともに、中間にも目標値の確認を行い、より目標値に近づけるよう意識させる。</u></p> <p>② 運動委員会の児童が「運動教え隊」を結成し視覚資料を作成して、新しい遊び等を紹介することで、日常運動に自然につなげさせる。</p> <p>③ 各教科及び各活動において、振り返りカード等を活用して、振り返りを確実にを行い、自己の変容を確認させる。</p>
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① <u>「学年スクスク」、「全校スクスク」などで健康指導を継続するとともに、家庭でも児童のよさや頑張りが話題になるように家庭への周知を行う。</u></p> <p>② 「スクスクウィーク」や長期休業中の「スクスクチェック」により、家庭での生活習慣への意識を高めるとともに、できている児童への称賛を確実に行う。</p> <p>③ 交通安全教室や避難訓練を通して行った振り返りを活用し、指導や称賛を行い児童自身の適切な判断力の向上を図っていく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 96.6%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① <u>「学年スクスク」、「全校スクスク」などで健康指導を継続するとともに、家庭でも児童のよさや頑張りが話題になるように家庭への周知を行う。</u></p> <p>② 「スクスクウィーク」や長期休業中の「スクスクチェック」により、家庭での生活習慣への意識を高めるとともに、できている児童への称賛を確実に行う。</p> <p>③ 交通安全教室や避難訓練を通して行った振り返りを活用し、指導や称賛を行い児童自身の適切な判断力の向上を図っていく。</p>

<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 係活動・委員会活動・清掃活動において、定期的に振り返りを行い、取り組みを確認させるとともに、児童が意欲的に活動を行えるように内容を工夫したり問題解決的な課題を設定したりする。</p> <p>② 昼会スピーチや学級での発表において、<u>頑張っていることなどについて話したり、友達の話を聞いたりすることにより、目標に向かって努力することの大切さに気付かせるとともに、頑張りを認める機会を作る。</u></p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 88.6% 保護者の肯定的回答 84.3%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① <u>昼会スピーチや学級での発表において、頑張っていることなどについて話したり、友達の話を聞いたりすることにより、目標に向かって努力することの大切さに気付かせるとともに、頑張りを認める機会を作る。</u></p> <p>② 係活動・委員会活動・清掃活動において、活動内容を児童自らが提案し、創意工夫を凝らして実行できるような場を設ける。</p> <p>③ 授業において、目標をもって問題解決に取り組めるような課題を設定する。</p>
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 児童の興味関心や発達段階に応じて、英語での放送を朝や清掃時に行う。</p> <p>② 引き続き、AET や担任が日常の中で積極的に英語で話したり、やり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.9% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 朝の放送を中心に、児童が英語を聞いたり話したりする機会を設ける。</p> <p>② AET や担任が授業だけでなく、朝の会・給食の献立・簡単な指示など、日常生活の中でも意識して英語で話したり、積極的にやり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。</p>
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上</p>	<p>① 生活科・社会科・総合的な学習の時間(宇都宮学)を活用し、宇都宮の歴史や伝統文化等を理解し、地域素材を活かした教育活動の展開・充実を図ることにより、良さを実感させる。</p> <p>② 児童が学んだ宇都宮の良さの情報を発信する場を設けることにより、より多くの児童に関心をもたせる。</p> <p>③ 道徳科の時間を活用し郷土を愛する心情を育む。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 89.4%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 生活科・社会科・総合的な学習の時間(宇都宮学)などで、宇都宮の歴史や伝統文化等を理解させ、地域素材を活かした教育活動の展開・充実を図ったりワークシートにまとめさせたりすることにより、良さを実感させる。</p> <p>② 児童が学んだ宇都宮の良さの情報を学年だよりやHP、学校公開日を活用して発信し、保護者との連携も図る。</p> <p>③ 道徳科では、校外活動と道徳の関連を図り、郷土を愛する心情を育む。</p>

<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 図書館司書と連携を図り、各教科において積極的に図書館を利用する場面を洗い出したり、低学年は週1回図書館を利用する時間を位置づけたりする。</p> <p>② プログラミング教材等、児童が利用しやすいように環境整備を図る。</p> <p>③ デジタルカメラなど児童が手軽に活用できるように基本的な操作方法（動画を含む）を指導するとともに、活用する場を多く設ける。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.9% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① プログラミング教材等、児童が利用しやすいように環境整備を図り、実践につなげていく。</p> <p>② 児童がタブレットやデジタル機器を手軽に活用できるように、基本的な操作方法（動画を含む）を指導するとともに、活用する場を多く設ける。</p> <p>③ 図書館司書と連携を図り、各教科において積極的に図書館を利用したり、低学年は週1回図書館を利用する時間を位置づけたりして、読書の幅を広げる。</p>
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① <u>生活科や総合的な学習の時間、会話科などで、高齢者の方の立場や気持ちなどを考える場を設けた上で実践できるよう指導する。</u></p> <p>② 地域教材（天祭、梨、生き物調査）を扱う際に、高齢者の努力により地域が現在のように住みやすくなっていることを指導する。</p> <p>③ 地域の方の協力に対し、お礼の手紙を書くなど感謝の気持ちを育てていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 87.8% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① <u>生活科や総合的な学習の時間、会話科、道徳科などで、高齢者の方の立場や気持ちなどを考える場を設けた上で実践できるよう指導する。</u></p> <p>② 地域教材（天祭、梨、生き物調査、川の一里塚）を扱う際に、高齢者の努力により地域が現在のように住みやすくなっていることを指導する。</p> <p>③ 地域の方の協力に対し、お礼の手紙を書くなど感謝の気持ちを育てていく。</p>
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 社会科や総合的な学習の時間、外国語活動・外国語科の時間を活用し、環境や国際理解、食に関する指導を行ったり、横断的な指導を実施したりするなど、工夫・改善を図る。</p> <p>② 児童会活動を中心に環境問題や防災等について話題にしたり、持続可能な社会に関わる本やニュースを紹介したりすることで、自分たちの生活と地球規模の課題が繋がっていることを意識させ、関心をもたせる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 86.2% 教職員の肯定的回答 84.2%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 社会科や理科、家庭科、総合的な学習の時間、外国語活動・外国語科の時間を活用し、環境や国際理解、食に関する指導を行ったり、教科横断的な指導を実施したり、工夫・改善を図る。</p> <p>② 児童会活動を中心に環境問題や防災等について話題にしたり、持続可能な社会に関心を高めたり、自分たちの生活と地球規模の課題が繋がっていることを意識させ、自分に出来ることに取り組みさせる。</p>
<p>B2 児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 引き続き、児童の主体的な活動を重視して展開したり、自分の考えを表現する場を計画的に位置づけ、相手を意識した表現方法の指導を行ったりする。</p> <p>② 表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、各教科や会話科において聞くことを重視した授業の展開を工夫する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.9% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 児童の主体的・対話的な活動を重視した授業展開を工夫したり、自分の考えを表現する場を計画的に位置づけ、相手を意識した表現方法の指導を行ったりする。</p> <p>② 表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、各教科や会話科において聞くことや聞き方を重視した授業の展開を工夫する。</p>

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 少人数指導の推進、かがやきルームの活用、個に応じた支援の工夫などを行い、適切な支援ができるよう配慮する。</p> <p>② スクールカウンセラーや市教育センターなどの関係機関と連携を図り、児童の実態に応じた適切な指導・支援が行えるよう工夫・改善していく。</p> <p>③ 特別な支援を必要とする児童へのかかわり方や指導法などの情報を適宜教職員で共有・工夫し、より効果的な指導・支援ができるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】 ① 少人数指導の推進、かがやきルームの活用、個に応じた支援の工夫などを見直し、適切な支援ができるよう配慮する。 ② スクールカウンセラーや市教育センターなどの関係機関と保護者との連携を図り、児童の実態に応じた適切な指導・支援を行う。 ③ 特別な支援を必要とする児童へのかかわり方や指導法について研修の機会をもち、情報を適宜教職員で共有・工夫し、より効果的な指導・支援ができるようにする。</p>
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 「いじめは絶対にダメ」ということを継続指導し、いじわる、嫌がらせなどにも厳しく指導する。</p> <p>② 「いじめゼロなかよし集会」において、校長講話や児童会による啓発活動を行い、よりよい人間関係作りに努める。</p> <p>③ 日々の様子やいじめアンケート、教育相談などをもとに、いじめの早期発見に努め、毅然とした態度で指導を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 99.2% 保護者の肯定的回答 88.6%</p> <p>【次年度の方針】 ① 「いじめは絶対にダメ」ということを継続指導し、いじわる、嫌がらせなどにも厳しく指導する。 ② 「いじめゼロなかよし集会」において、校長講話や児童会による啓発活動を行い、よりよい人間関係作りに努める。 ③ 日々の様子やいじめアンケート、教育相談などをもとに、いじめの早期発見・早期解決に努め、毅然とした態度で指導を行う。 ④ 月1回、アンケートを行い、いじめの早期発見に努める。</p>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 「<u>「ハッピーな一ページ」を活用し、友達の良い所を積極的に認めることで、一人一人の自己肯定感を高める。</u></p> <p>② 学級活動などの特別活動において、個性や特技を生かすなど活躍の場を設け、活動後にその頑張りを称賛する。</p> <p>③ お互いが個性を理解し、よりよい人間関係作りができるよう協働作業等を取り入れる。</p>	<p>【【達成状況】 児童の肯定的回答 98.4% 保護者の肯定的回答 92.6%</p> <p>【次年度の方針】 ① 道徳科の授業や朝の会・帰りの会等で、「<u>「ハッピーな一ページ（一人一人のよさを記入していく掲示物）」</u>を活用し、<u>友達の良い所を積極的に認めることで、一人一人の自己肯定感を高める。</u></p> <p>② 学級活動などの特別活動において、個性や特技を生かすなど活躍の場を意図的に設け、活動後にその頑張りを称賛する。 ③ お互いに個性を理解し、よりよい人間関係作りができるよう協働作業等を取り入れる。 ④ 児童が欠席した場合には、保護者と連絡を密に取り、相互に様子を伝え合ったり、担任が児童と話す機会をもったりする。</p>

<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 日本語指導ボランティアや特別支援教室との連携を図りながら、生活や学習に必要な日本語表現を身に付けさせる。</p> <p>② 道徳や外国語科・外国語活動において、異なる文化慣習について話題にするなど学級での指導を十分に行い、互いの文化を大切にしようとする心情を育てる。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 日本語指導ボランティアや特別支援教室との連携を図りながら、学習に必要な日本語表現を身に付けさせる。</p> <p>② 各教科や外国語科・外国語活動において、異なる文化慣習について話題にするなど学級での指導を十分に行い、互いの文化を大切にしようとする心情を育てる。</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 学習活動におけるねらいや目標を明確にし、見通しをもって解決できるよう支援の充実を図る。</p> <p>② 自己の成長を感じられるように振り返りを行い、必要に応じてそれを生かし繰り返し取り組める場を設定することで、児童の意欲の向上に努める。</p> <p>③ <u>小規模校の特性を生かし、一人一人を大切に</u>した教育活動（<u>昼会スピーチ</u>など）の展開や、状況や場面に応じて<u>話す相手を意識させた指導</u>を行っていく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 93.4% 保護者の肯定的回答 95.9%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 学習活動におけるねらいや目標を明確にし、見通しをもって解決できるよう支援の充実を図る。</p> <p>② 自己の成長を感じられるように振り返りを行い、必要に応じてそれを生かし繰り返し取り組める場を設定することで、児童の意欲の向上に努める。</p> <p>③ <u>小規模校の特性を生かし、一人一人を大切に</u>した教育活動（<u>昼会スピーチ</u>など）の展開や、状況や場面に応じて<u>話す相手を意識させた指導</u>を継続していく。</p>
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 各調査や学級における児童の実態を担任や特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、保護者が共有し、それをもとに学級及び児童各個人の適切な目標を設定しながら学力向上に努める。</p> <p>② 日常の授業実践を重視し、児童の学習状況を的確に把握することにより、朝の学習の時間や学習相談タイムを効果的に活用し、学習内容の確実な理解と定着を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 各調査や学級における児童の実態を担任や特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、保護者が共有し、それをもとに学級及び児童各個人の適切な目標を設定しながら学力向上に努める。</p> <p>② 日常の授業実践を重視し、児童の学習状況を的確に把握することにより、朝の学習の時間や習熟度別学習を効果的に活用し、学習内容の確実な理解と定着を図る。</p>

<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 共通理解すべき事項について、打合せ・掲示板・回覧などによる周知を徹底し、全職員が連携、協力して、学習指導や児童指導に取り組める体制を強化する。</p> <p>② 栄養士、司書、AET、特別支援教室担当教員、学力向上担当教員など多様な専門性を有する学校スタッフの各種行事等での役割を、実施計画に明確に位置づける。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 共通理解すべき事項について、打合せ・掲示板・回覧などによる周知を徹底し、全職員が連携、協力して、学習指導や児童指導に取り組める体制を強化する。</p> <p>② 栄養士、司書、AET、特別支援教室担当教員、学力向上担当教員、学級支援事務など多様な専門性を有する学校スタッフの各種行事等での役割を、実施計画に明確に位置づける。</p> <p>③ 担任以外の教職員を、各学級に配属し協力して児童指導や事務処理の支援にあたる。</p>
<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 月一回のリフレッシュデーを設定することにより、計画的に業務を行い、定時退勤を心がける。</p> <p>② 出退勤時刻を自分自身で管理したり、目標退勤時刻を各自が決めて業務を行ったりすることで、勤務時間厳守の意識を高める。</p> <p>③ 事務スタッフなどの職員が、教員の事務作業等を集約して実施することにより、業務の効率化を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 月一回のリフレッシュデーを設定し、計画的に業務を行うことにより、情報交換や事務処理の時間を確保する。</p> <p>② 出退勤時刻を自分自身で管理したり、目標退勤時刻を各自が決めて業務を行ったりすることで、勤務時間厳守の意識を高める。</p> <p>③ 事務スタッフなどの職員が、教員の事務作業等を集約して実施することにより、業務の効率化を図る。</p>
<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 地域学校園の分科会で指導方針等の共通理解を図り指導していくとともに、中学校訪問、児童指導の情報交換・連携を充実させ、小中学校間の連携を強化する。</p> <p>② 小中一貫教育に関する取組の様子をHP、各種たよりを活用して発信し、周知していく。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 73.2% 保護者の肯定的回答 89.6%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 地域学校園の分科会で指導方針等の共通理解を図り指導していくとともに、学習や児童指導の情報交換・連携を充実させ、小中学校間の連携を強化する。</p> <p>② 小中一貫教育に関する取組の様子を、HPや各種たより、掲示物などを活用して発信し、周知していく。</p>

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① <u>特認校として家庭・地域・企業と連携した特色ある教育活動（「板戸学習プログラム」等）を教育課程に位置付け、年間指導計画を見直し、改善を図りながら実践していく。</u></p> <p>② 町探検や近隣施設との関わりなど、各活動において、地域の教育力を生かした取組ができるよう継続して実施するとともに、取組の様子を掲示し、意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答 96.6% 地域住民の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① <u>特認校として家庭・地域・企業と連携した特色ある教育活動（「板戸学習プログラム」等）を教育課程に位置付け、年間指導計画を見直し、改善を図りながら実践していく。</u></p> <p>② 町探検や近隣施設との関わりなど、各活動において、地域の教育力を生かした取組ができるよう継続して実施するとともに、取組の様子を掲示・発信する。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 学級懇談会や三者懇談等の機会や学年だより等の各種便り、HP、「まなびポケット」等を通して、教育活動の方針や児童の成長の様子を伝え、家庭との連携・協力を図る。</p> <p>② <u>学校・家庭が連携協力した環境整備作業や外部講師・各種団体を招いた教育活動を計画・実施し、より主体的に学ぶ姿勢や地域を愛する心を育ていく。</u></p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答 96.6% 地域住民の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 学級懇談会や三者懇談等の機会や学年だより等の各種便り、HP、「まなびポケット」等を通して、教育活動の方針や児童の成長の様子を伝え、家庭との連携・協力を図る。</p> <p>② <u>学校・家庭が連携協力した環境整備作業や外部講師・各種団体を招いた教育活動を計画・実施し、より主体的に学ぶ姿勢、地域を愛する心情を育む。</u></p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上</p>	<p>① 授業時間帯に門扉・校舎出入口の施錠を徹底するとともに、<u>防犯対策について表示することで、児童・来校者への防犯意識を高める。</u>（インターフォンでの対応）</p> <p>② 駐車場等での規則について、お願いの手紙やHP等で周知することで、交通事故の防止に努める。</p> <p>③ <u>暑さ指数の掲示や、こまめな水分補給など、常時、暑さ対策を周知・徹底することで熱中症事故等の防止につとめる。</u></p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 97.6%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 授業時間帯に門扉・校舎出入口の施錠を徹底するとともに、<u>防犯対策について表示することで、児童・来校者への防犯意識を高める。</u>（インターフォンでの対応）</p> <p>② 駐車場等での規則について、お願いの手紙やHP等で周知することで、交通事故の防止に努める。</p> <p>③ <u>暑さ指数の掲示や、こまめな水分補給など、常時、暑さ対策を周知・徹底することで熱中症事故等の防止につとめる。</u></p> <p>④ <u>感染症対策（マスクの着用・三密回避・定期的な消毒等）を、学校HP、配付文書、ポスター等を活用し呼び掛ける。</u></p>

	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① デジタル教科書等のメディア教材やパソコン室・図書室等の「学習・情報センター」としての機能を積極的に活用することで、学習内容の理解を深める。</p> <p>② 蔵書の充実を図るため、地域学校園での「蔵書貸し借りの制度」や市立図書館の「希望図書貸し出しサービス」等を活用する。</p> <p>③ 学年に応じたプログラミング教育の実践のために、プログラミング教材を活用しやすいように整えたり、教員が研修する機会を設けたりする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 91.9% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 1人1台パソコンを各教室に設置し、児童1人1人が学習にICTを活用できるよう整備する。</p> <p>② 蔵書の充実を図るため、図書の新規購入に加え、地域学校園での「蔵書貸し借りの制度」や市立図書館の「希望図書貸し出しサービス」等を活用する。</p> <p>③ 学年に応じたプログラミング教育の実践のために、プログラミング教材を活用しやすいように環境を整えたり、教員が研修する機会を設けたりする。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B1 学校は、地域の素材や教育力（歴史や自然、文化、人材等）を生かし、教育活動の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域の素材や教育力（歴史や自然、文化、人材等）を生かし、教育活動の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上</p>	<p>① 特認校としての特色ある教育活動を学校経営の軸として教育課程に位置付け、学校と家庭・地域の双方向的な関係としての「地域とともにある学校」を実践する。</p> <p>② <u>生活科や社会科・総合的な学習の時間などの年間指導計画を見直すと共に学校行事との関連を図りながら、地域の素材や教育力を生かした学習活動を意図的・系統的に取り入れる。</u></p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 90.2% 教職員の肯定的回答 100%</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 特認校としての特色ある教育活動を学校経営の軸として教育課程に位置付け、学校と家庭・地域の双方向的な関係としての「地域とともにある学校」を実践する。</p> <p>② <u>生活科や社会科・総合的な学習の時間などの年間指導計画を見直すと共に学校行事との関連を図りながら、地域の素材や教育力を生かした学習活動を意図的・系統的に取り入れる。</u></p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>・80%以上の肯定的な回答を得た項目は、児童評価 21/22、保護者評価 20/21、地域住民評価 13/13、教職員評価 27/27 であり、全体として学校教育に対する満足度及び達成感が高い。</p> <p>・ここ数年課題であった「あいさつ」については、<u>昇降口やロビー・各教室などで分散実施するなどの感染症対策を取ったうえで、学年ごとやペア学年であいさつ運動を行った。</u>また、あいさつのポイントを校内放送で紹介するなど、お互いのあいさつのよさを認め合うことでよりよいあいさつを意識する児童が増え、児童・保護者・地域・教職員すべてで、市の平均を上回った。今後も校内での取組を継続するとともに、保護者に参加を呼びかけたあいさつ運動を実施するなど大人があいさつの模範となるよう、意識の高揚や啓発活動を続けていきたい。</p> <p>・昨年度、新規に評価対象となり肯定的回答の低かった項目（「英語を使ったコミュニケーション」、「宇都宮のよさ」、「高齢者へのいたわり」、「持続可能な社会」）については、いずれも昨年度より5ポイント以上高く、市の平均と比較しても上回っている項目が多かった。今年度は、校長講話・関連する図書資料や新聞記事の紹介・発見カードの活用など、様々な場面でこれら のことを話題にすることにより、意識付けを図ることができた。よりよい社会をつくる担い手となる子どもたちを育てるために、これからも継続していく。</p> <p>○「小中一貫教育・地域学校園」の取組に関しては、6年生の中学校訪問や乗り入れ授業が中止になったこともあり、昨年度と比較すると低い結果となった。しかし、「地域学校園統一のおにぎりの日」や中学校生徒会作成の中学校生活をまとめたDVDの視聴など、コロナ禍にあっても工夫して活動を進めてきた。次年度も中学校と連携しながら、取り組んでいきたい。</p> <p>・コロナ禍により、例年通りの学習活動を実施できなかったが、保護者に対しては、参観人数を絞った授業参観や「ミニ運動会」、参観者総入れ替え体制で分散実施した「ミニ学習発表会」などを通して、教職員の熱心な学習指導やきめ細かな児童への対応についての理解を深めていただいた。今後も継続して指導に当たっていく。</p>

7 学校関係者評価

- ・肯定的回答が向上している項目が多く、教員の努力と同時に子どもたちの意識の向上を読み取ることができた。
- ・新型コロナウイルス感染防止のために自粛や制限が求められ、今まで当たり前のように行ってきた様々な教育活動を実践できることのありがたさを痛感した年となった。そんな中、創意工夫により、「あいさつ」等の項目で効果を上げている北小の教育力は素晴らしい。これからも、和顔愛語の精神を発揮して社会生活が送れる人間の育成を目指してほしい。
- ・「基本を大切にしている」ことがうかがえる結果になっている。基礎の部分をおろそかにすると、頂点に達することは難しい。今後、ICT機器を活用する機会が著しく増えると、便利さや効率を優先して、基本がおろそかになることが懸念される。周囲の環境変化に惑わされることなく「基本を大切にする」方針を継続してほしい。
- ・コロナ禍の中で、学校運営上も様々な対応をしてきたことと思う。ウィズコロナの工夫により、次年度の地域と学校が連携して行う活動なども行えるよう連携・協力していく。
- ・人数が少ない中ででの評価は、数字がすぐに変化してしまうので、一喜一憂することなく取り組んでほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校関係者評価では、多くの項目で肯定的回答が市の平均や昨年度の数値を上回ったことを、コロナ禍にありながらも堅実に指導を続けてきた成果として受け止めていただいた。教職員の日々の指導や地道な創意工夫を継続するとともに、新たな視点で学んだこと（「宇都宮のよさ」や「持続可能な社会」など）を地域の大人たちと何らかの形で共有できたら、学校と地域が連携しながらさらに発展していけるのではないかなど、次年度の活動へつながる提案もなされた。

次年度は、本校の特色でもある「地域と共にある学校」の一環として、「板戸河岸」や「鬼怒川」を核として地域の教育資源を活用し、「宇都宮学」を推進するとともに、地域とかわりながら「あいさつ」や「思いやりの心」を育ていきたい。また、確かな学力が身につく授業づくりや「プログラミング教育」、「GIGAスクール構想」などの今日的課題にも積極的に取り組み、個々の教員の指導力を高めるなど、継続して指導に当たっていきたい。